

大伴宿禰、巨勢郎女を娉ふ時の歌一首

一〇一番

玉葛 たまかづら 実成らぬ木には みな ちはやぶる き 神そつく かみ
といふ な ならぬ木ごと き に

巨勢郎女の報へ贈る歌一首

一〇二番

玉葛 たまかづら 花のみ咲きて はな 成らざるは な 誰が恋ならめ た
我は恋ひ思ふを あ こ おも

天皇、藤原夫人に賜ふ御歌一首

一〇三番

我が里に わ さと 大雪降り おほゆきふ 大原の おほはら 古りにし里に ふ さと
降らまくは後 ふ のち

藤原夫人の和へ奉る一首

一〇四番

我が岡の わ をか おかみに言ひて い 降らしめし ふ 雪の摧 ゆき くだ
けし ち そこに散りけむ